

地域連携の新しいカタチ 高知大学地域コーディネーター

University Block Coordinator (UBC)

大学はキャンパスにあるもの。そんな“あたりまえ”の常識を超えるため高知大学では県内7地域にサテライト・オフィスを設置。その最前線で、UBC（高知大学地域コーディネーター）の4人の教員が活動しています。教員が地域に駐在するという、世界の大学を見ても類のないUBCの取り組みについて紹介します¹⁾。

「地域の大学」として、「Super Regional University」を目指している高知大学。地域と密着した全国トップの大学になるべく、地域への貢献をミッションとして掲げています。そこで立ち上げたのが「KICS（高知大学 Inside・Community・System）」事業です。

KICSには、高知大学が地域に深く入り込むというメッセージが込められています。キャンパスが県中央部に集中している本学では、東西に広く、中山間地が多い高知県の課題や要望を丁寧に拾い上げることは困難でした。そんな“地理的障壁”を解消するため、本学では2013年度から県内7地域にある県庁の産業振興地域本部内にサテライト・オフィスを設置させていただき、UBCが常駐を始めました。



UBCの役割は地域からの相談を学内と橋渡しすること。産学連携や地域協働のための課題の掘り起こしや課題解決のアドバイスなどに取り組みます。また、地域をフィールドとする教育・研究のサポートも行います。

学生と地域活性化に取り組みたいという地域ニーズは多数あり、そのマッチングもUBCの重要な役割です。地域で活動をしたい学生にとっても、UBCのネットワークは強力な味方です。他大学のコーディネーターとの大きな違いは、地域と一緒に問題解決をすることを活動の第一義としていることでしょう。学生や研究とは関係がなかったとしても、地域から寄せられる課題を総合的にコーディネートします。大学が担うべき社会貢献の具現化を使命としています。

4人のUBCは異なる専門領域を持っていて、専門性を活かしながら、あるいは互いに相談しながら、地域の課題と向き合います。UBCが駐在することにより、大学で待っているだけでは見えてこない課題が浮かび、新たなプロジェクトがいくつも立ち上がりました。4人で年間60件ほどのプロジェクトに関わっています。これまでとは違う新しい地域との関わり

方が、地域の学び舎としての高知大学の役割につながっています。本稿では、4名の UBC のうち、日台連盟を担当する岡村健志准教授と赤池慎吾准教授を紹介します。

『地域をよく知る第三者として全体最適を目指す』

岡村 健志 (Kenji Okamura)

高知大学次世代地域創造センター 准教授



—これまで印象に残っているプロジェクトは何ですか？

●岡村／2014 年から現在も続いているプロジェクトで、黒潮町公式サイトの運営支援です²⁾。最初はサイトをリニューアルしたいということで、企画とプロデュースとして参画しました。ただ、サイトを作ったはいいが、中身の更新がされないということが起こりがちです。何を伝えたいかを明確にしないと、作っただけで終わってしまうことになりかねません。そこで、サイトをどのように使いたいのか、黒潮町の担当者と一緒に考えるところから企画を始めました。

リニューアル後、最も大きく変わったのが記事更新の頻度です。現在、毎月50本近い記事を専任の担当者たちが更新しています。記事更新を支えている一つの仕組みに、私も参加して毎月行っている編集会議があります。先月のアクセス数はどうだったか、先月投稿した記事の反響はどうだったか、来月はどんな記事を予定しているのかなどを話し合います。



また、Facebook や Instagram、twitter も始めています。日常的に付き合えるウェブコミュニティの人たちの獲得を目指しました。SNS の中では、Facebook を本命視していました。しかし、担当者たちがやりたいと声を上げたのは Instagram でした。やりたいと思う気持ちは大切です。そこで、担当者たちとともに Instagram も始められるよう黒潮町と話し合いました。結果、Instagram は県内の自治体でフォロワー数1位です。

—このプロジェクトの中で、どのような役割を担ったのですか？

●岡村／私は、黒潮町をよく知る第三者の立場で、相手の思いや希望を明確にしていく“外部化”という作業を行います。そしてコンサルタントとして、「全体最適」を追い続けるのが役割だと思っています。当事者だと物事の意味決定をする段階で様々な事情が介在するため、常に最適を意識することが困難です。そこで、様々な事情を踏まえながらも全体最適を求め、やるべきことに挑戦するための階段を作るのが私の仕事の一つだと思います。

—高知大学としては、どのように関わったのですか？

●岡村／UBC の活動を体験するプログラムである「UBC インターンシップ」に参加した学生に、編集会議に参加してもらいました。実はこの学生は、自身でフォロワーの多い Instagram を運営しています。そこで、学生に Instagram についてセミナーを行ってもらい、黒潮町の担当者にアドバイスしてもらったり、キャンペーンの企画を考えてもらったりしました。学

生にとっても、自分の得意分野が活かせるいい経験をしたと思います。

—今後の抱負を教えてください。

●岡村／コーディネーターの仲間を増やしていきたいと考えています。大学だけでなく、地域の方、行政の方でもいい。年齢も問いません。コーディネーターという仕事は世の役に立つと思うので、もっと経験やノウハウを共有できた方が地域の課題解決に向けた環境が整うのではないのでしょうか。すでに、自治体の連携コーディネーターとして、大学に出向いて地域とつなぐ役割を担う自治体職員も複数活動しています。彼らのような存在が増えればと思いますし、コーディネーター養成講座のようなセミナーも開いてみたいです。

『住民の相談からはじまった日本遺産チャレンジ』

赤池 慎吾（あかいけしんご）

高知大学次世代地域創造センター 准教授



—これまで印象に残っているプロジェクトは何ですか？

●赤池／高知県中芸地域（奈半利町、田野町、安田町、北川村、馬路村）の皆さんと一緒に取り組んだ「日本遺産」認定のプロジェクトが特に印象深いです。

中芸地域との関わりは、地域にかつて走っていた森林鉄道について、地域住民の記憶を記録したいという相談からスタートしました。まず、人文社会科学部教員で研究グループを組み、2015年から聴き取り調査を開始しました。私もコーディネーターとして参加し、これまでに延べ60人の方に、生まれてから今日に至るまでのライフヒストリーをインタビューしています。その後、地域活性化のために日本遺産申請に挑戦したいという話が地域から持ち込まれました³⁾。

日本遺産は、地域の文化財や伝統文化を、その歴史的な経緯や受け継がれている伝承、風習などを踏まえた「ストーリー（物語）」を作成し、地域活性化を図るというものです。このストーリーを大学が中心になって作ってほしいということで、人文社会科学部の岩佐光広准教授と私でまとめることになりました。日本遺産の審査は採択率が低く、とても難関です。しかもストーリーを考える際、森林鉄道だけではない、現在の魅力は何なのかが認定では問われました。そこで、住民の皆さんと地域の今の魅力は何なのかを考えるため、何度も協議を重ねました。かつて盛んだった林業が衰退する中で、新たに「ゆず生産」が盛んになったことは地域の特徴であり、魅力だということを、地域の人とともに再認識することができました。そして誕生したのが、「森林鉄道から日本一のゆずロードへゆずが香り彩る南国土佐・中芸地域の景観と食文化」というストーリーです⁴⁾。2017年、高知県内単独では初の

日本遺産の認定を受けることができました。

—日本遺産認定により大学の関わりは変わりましたか？

●赤池／日本遺産申請のきっかけになったインタビュー調査は、地域を学ぶ手法としてもすごく意味があるのではないかと思い、人文社会科学部ではインタビュー実習を開始しました。学生は講義でインタビュー手法や地域のことを学んだ後、現地を見学。実際にインタビューを行い、文字起こしとレポートを作成する。一人一人の人生に向き合うという、これまでにはない地域との関わり方の重要性を学生たちも認識できたようで、インタビュー調査のための地域活動団体を学生自ら立ち上げました。



—今後、取り組んでいきたいことは？

●赤池／今、私が力を入れているのが、台湾との連携です。台湾も日本同様、農村部の過疎化や都市への人口集中といった課題を抱え、地方創生を進めるために大学も地域に関わる取組を始めています。そこで2019年12月に国立高雄科技大学と交流協定を結び、2021年7月現在、国立台湾海洋大学との交流協定の締結を準備しています。日本と台湾で情報を共有して、互いに学生や教員が一緒に何かできないかと模索を始めたところです。

日本と台湾の学生が互いの「地方創生」を学ぶことで、それぞれの大学の地域連携を発展させる可能性があるのではないかと期待しています。国境を越えて、高知と地域のつながりを作っていくことも、大学ならではの地域貢献だと考えています。

参考文献・URL

- 1) 本稿は高知大学広報誌「Lead」に掲載された記事の一部を許諾を得て転載したものです。
出典：高知大学，地域連携の新しいカタチ，Lead，No. 32，pp. 1-3，2020.
http://www.kochi-u.ac.jp/_files/00141697/2020_1.pdf
- 2) 黒潮町公式サイトをご覧ください。<https://www.town.kuroshio.lg.jp/>
- 3) 日本遺産については、文化庁ホームページを参考にしてください。
<http://japan-heritage.bunka.go.jp/ja/>
- 4) 中芸のゆずと森林鉄道日本遺産ホームページをご覧ください。
<http://yuzuroad.jp/index.html>